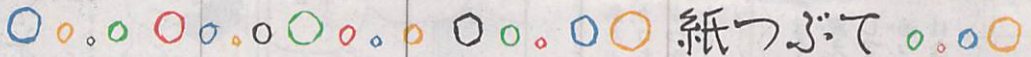


2020.10.24



紙つぶて

意外かもしれないが、私は小学三年生から社会人になるまで、ぐれてきた。権威のある大人に徹底的に敵意をもっていた。又んチャクなどで他害行為はしなかったが、教師にはひどく当たっていたし、不良に憧れていた(自分もそうだった)。

きっかけは明瞭で、弱い男の子をかばって顔を五十発殴られたのに教師(体罰教師でもあった)も親も信頼してくれなかったからだ。とても痛かったが耐えたため、殴った男の子の手が痛くなつて終結した。ここで泣いてはいけない、と思つて、家の玄関に入るまで一滴も涙を流さなかった。私を殴った男の子は、さすがに感心したらしく、その後私の子分になった。小五の終わりに転

ぐれてきた過去



水島 広子

校するまで、私はかなり強く君臨したし、通信簿に「責任感強いが協調性に欠ける」と書かれた。推薦入学など屈辱で、受験もいつも一発勝負だった。今でも人を笑わせるのは好きだし、権威を持つ人に従順ではない。しかし、仕事やボランティア活動、子育てを通して、人が好きになつた。好きでたまらない、というくらいだ。

権威のある大人にあんな扱いを受けなければ、人生はだいぶ変わっていたと思う。幸いわが子はよい教師に恵まれて、思いやりのある子に育っている。子どもからの愛が、私を癒やしていると言つても過言でない。信頼されることの重要さを、人生をかけて学んだ気がする。

(精神科医)